

研究分野	漁場環境	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研究事業名	資源管理に必要な情報提供事業		
予算区分	受託研究(青森県)		
研究実施期間	H19～H23		
担当者	今村 豊・大水 理晴・田中 淳也・高坂 祐樹		
協力・分担関係	日本海区水産研究所		

〈目的〉

青森県日本海、太平洋、津軽海峡の沿岸域における漁況・海況情報を収集し、得られた情報を漁業者等に提供するものである。

〈試験研究方法〉

青森県の日本海沿岸・沖合定線観測及び太平洋沖合定線観測を実施し、対馬暖流(日本海)及び津軽暖流(太平洋)の流勢指標を平年(1963～2008年平均値)と比較した。また、収集・分析した情報は、ウオダス漁海況速報や水産総合研究所のホームページ通じ情報提供を行った。

〈結果の概要・要約〉

1 日本海(観測月：7月と1月を除いた各月1回)

対馬暖流の流勢指標の推移を表1に示した。0m層最高水温は、2、3、8、12月は高め、6、9月は低めであった。50m層最高水温は、2～8月までは高めで推移し、その後、平年並みとなったものの、再び、11～12月は高めで推移した。100m層最高水温は、ほぼ50m層最高水温と同様の傾向であった。

2 太平洋(観測月：3、6、9、12月の各月1回)

津軽暖流の流勢指標の推移を表2に示した。各層共に3、12月が高めであった。

3 沿岸低地水温(周年)

沿岸低地水温の推移を図1、2に示した。

日本海：2～6月は高めで推移していたが、7～10月は低めに転じ、11月には再び高めで推移した。

津軽海峡：1～5月は高めで推移していたが、6～10月は低めに転じ推移した。

陸奥湾：1～5月は高めで推移していたが、6月は低めに推移した。7月には高めに転じたものの、8～10月は低めで推移した。

太平洋：陸奥湾と同様の傾向で推移した。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 日本海における対馬暖流の流勢指標の推移

※平年比(%) = 平年偏差/標準偏差 × 100

		2月	3月	4月	5月	6月	8月	9月	10月	11月	12月
各層最高水温(°C)	0m	+	+	欠測	欠測	-	++	-	±	±	++
	50m	+	++	欠測	欠測	++	+	±	±	+	+
	100m	+	+	欠測	欠測	++	±	±	±	+	+
流幅(マイル)	舳作線	+++	+	欠測	欠測	+	+++	±	±	±	±
	十三線	---	+	欠測	欠測	±	++	±	±	±	--
水塊深度(m)		±	±	欠測	欠測	+	-	±	±	±	±
北上流量(Sv. (10 ⁶ m ³ /s))		---	±	欠測	欠測	++	±	±	±	±	±
対馬暖流の勢力		±	+	欠測	欠測	+	±	±	±	±	±

階級	平年並み	やや	かなり	はなはだ
平年比の範囲	±60%未満	±130%未満	±200%未満	±200%以上
記号	±	+, -	++, --	+++, ---

表2 太平洋における津軽暖流の流勢指標の推移

		3月	6月	9月	12月
各層最高水温 (°C)	0m	+	--	±	++
	50m	+	±	±	+
	100m	+	±	±	+
水塊深度 (m)		±	+++	---	-
張り出し位置 (東経)		±	±	±	-

階級	平年並み	やや
平年比の範囲	±60%未満	±130%未満
記号	±	+ , -
	かなり	はなはだ
	±200%未満	±200%以上
	++ , --	+++ , ---

※平年比(%) = 平年偏差/標準偏差 × 100

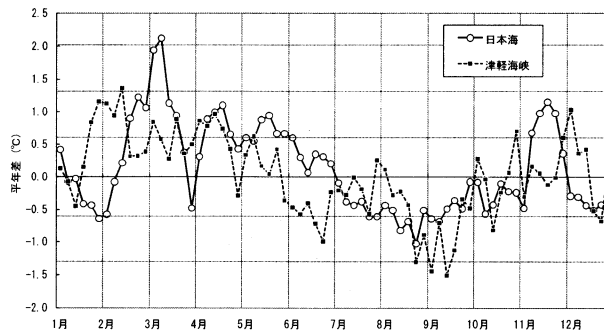


図1 日本海、津軽海峡の沿岸定地水温の推移(半月平均値)

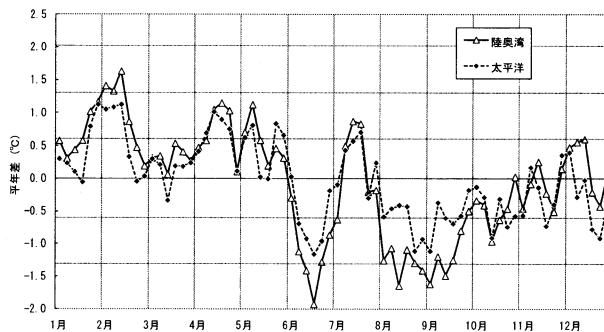


図2 陸奥湾、太平洋の沿岸定地水温の推移(半月平均値)

〈今後の問題点〉

収集した海況情報と漁況情報との関係について解析が進んでいない。

〈次年度の具体的計画〉

定線観測等により収集した情報を、引き続きウオダス漁海況速報や水産総合研究所のホームページ等を通じ情報提供を行う。また、収集した海況情報と漁況情報との関係について解析を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

発表：平成21年度東北ブロック水産海洋連絡会